

『古代アメリカ』13, 2010, pp.103-114

<調査速報>

ワリの祭祀建築の起源を求めて -ペルー、アヤクーチョ谷、 ワンカ・ハサ遺跡の D 字形建築-

土井正樹
(国立民族学博物館外来研究員)

1. ワリ研究における D 字形建築

現在のペルーを中心とする中央アンデス地域では、いわゆるアンデス文明の展開が見られた。このアンデス文明の歴史の中で、中期ホライズンは、アンデス文明史上初の帝国であると考えられているワリが栄えた時代として知られている（表1）。ワリの首都は、ペルー中央高地南部のアヤクーチョ谷に位置するワリ遺跡である（図1）。本稿では、ワリの祭祀建築として近年注目されるようになったD字形建築の、最古の事例について報告する。

ワリの地方への進出を示す主な考古学的証拠は、建築と土器である。ワリ遺跡に見られる土器は、中央アンデスの広い範囲に分布しており、しかも、ワリ関連遺跡の土器分析から、土器の拡散は極めて短期間に生じたことが指摘されている〔Schreiber 2001: 276〕。さらに、数百キロ離れた土地に、首都と同じ特徴を有する建築が存在することは、中央から地方に対し、直接政治干渉が行われた証拠と見なされている〔Isbell 1991b; Schreiber 1992: 266〕。

ワリの建築として注目を集めてきたのは、

表 1 編年 (Schreiber and Rojas 1995 と Finucane 2007 に基づき筆者作成)

	C補正年代に基づく 草つく・後編年	C補正年代に基づく アヤクーチョ谷の年
1400	後期中間期	アヤクーチョ谷の形成
1300	後期中間期	アヤクーチョ谷の形成
1200		
1100		
1000		
900	中期ホライズン	中期ホライズン
800		
700		
600		
500		
400	前期中間期	前期中間期
300		
200		
100		
80/AD		形成期

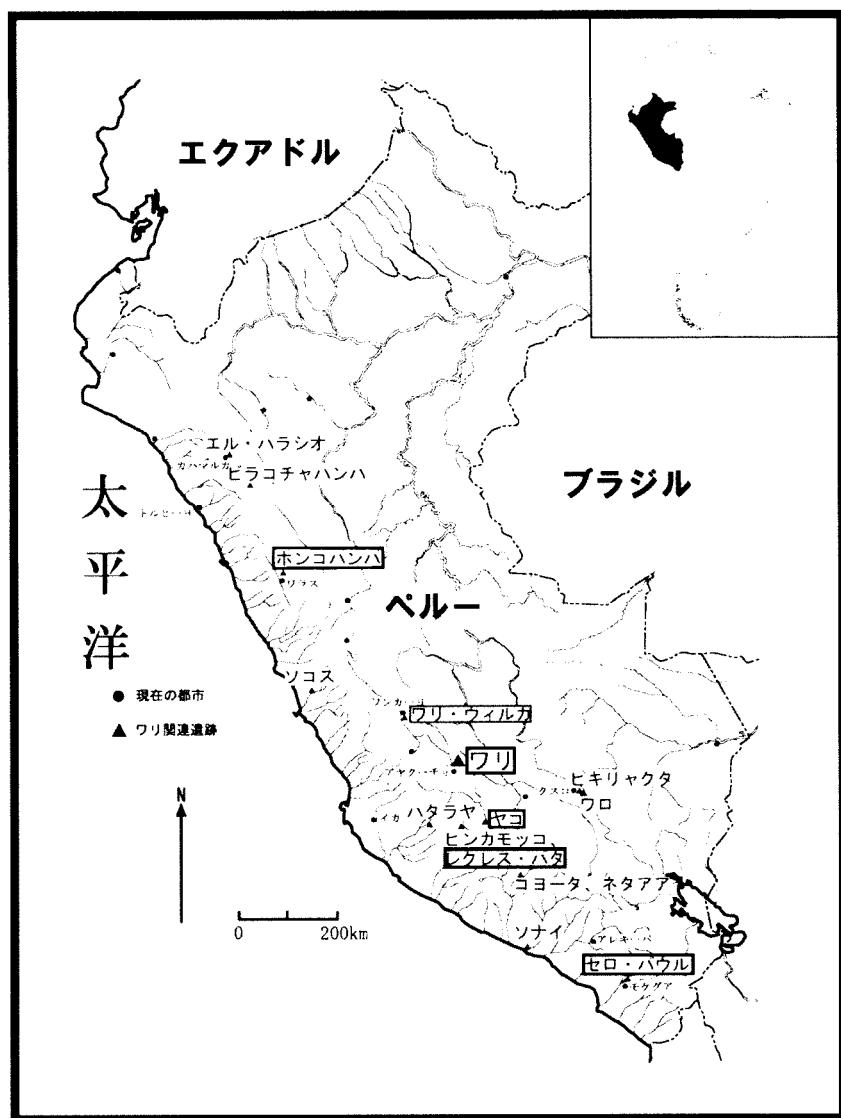


図1 ワリ関連遺跡(四角で囲まれた遺跡にはD字形建築が存在する)

巨大矩形エンクロージャー (great rectangular enclosures)、計画的センター (planned center) などと呼ばれる巨大矩形建築や [Schreiber 1991; Anders 1991]、パティオ・グループ (patio-group) と呼ばれるものである [Isbell et al. 1991: 37]。巨大矩形建築は、地方におけるワリの支配の拠点と考えられており、「行政センター」とも呼ばれる。このタイプの建物は、はじめに部屋を設ける予定の空間を直線壁で取り囲み、次にその内部を直交する壁によって区切るという手順で建設されている [Isbell 1991b: 297]。空間を取り囲む壁の平面プランは、矩形を呈することが多い。一方、パティオ・グループとは、中央の広場とそれを取り囲む部屋から構成される、全体として矩形もしくは正方形の平面プランを有する建築単位である [Isbell et al. 1991: 37-38]。巨大矩形建築内部の構成要素である場

合と、独立した建物となっている場合がある。

これまでワリの建築で研究対象とされてきたのは、巨大矩形建築や、パティオ・グループという直線的な壁によって構成される矩形建築であった。これらの建物に加え、近年注目を集めようになってきたのがD字形建築と呼ばれる建物である。D字形建築とは、アルファベットのDの字のような平面プランを有する建築である。つまり、建物の壁の一部が直線で残りの部分が半円形となっている。D字形建築は、神殿や祭祀建築などと呼ばれ、一般に儀礼を行った場であると考えられている [Cook 2001; Isbell 2001: 21-22; Machaca 1997: 20; Ochatoma 2007: 231; Ochatoma y Cabrera 2001: 456]。Anita G. Cook [2001: 154]によれば、D字形建築は、ワリの宗教にとって重要な施設であり、ワリの拡大により、中央アンデス地域各地に広まったという。彼女は、主に土器の図像およびD字形建築と埋葬施設との関連性に基づき、D字形建築は、神々または祖先に対する、人身供犠を含む奉納儀礼を行う場であったという解釈を提示している。

このように、D字形建築はワリの祭祀施設として認識されるようになったが、その起源は不明である。またその内部で行われた活動内容に関する情報も少ない。筆者が行った発掘調査では、これまででもっとも古い時期のD字形建築とその機能に関する新たな資料が得られ、D字形建築の放棄時に行われた儀礼の様子や、この建物が当時の人々にどのように認識されていたのかが明らかになった。紙数を費やすての議論が必要となるため詳細は割愛し、本稿では資料の提示にとどめる。まず、これまでに報告のあるD字形建築について概観し、その特徴を確認しておく。

2. ワリ関連遺跡のD字形建築

現今までにD字形建築の存在が報告されている遺跡はそれほど多くはないが、ワリの土器や建築が分布する地理的範囲内の北から南まで広く分布している。特に、ワリの中心地であるアヤクーチョ谷からの報告が多い。

アヤクーチョ谷では、ワリ遺跡のチェコ・ワシ区域 [Benavides 1991; 写真1] とベガチャヨフ・モホ区域 [Bragayraq 1991; Gonzalez 1996; 写真2]、コンチョバタ遺跡 [Isbell and Cook 2002: 291-292; Pozzi-Escot 1991: 84; Ochatoma 2001: 464]、ニヤウインプキオ遺跡 [Machaca 1997]、そしてハサバンバ遺跡 [Vivanco et al. 2003] でD字形建築の存在が

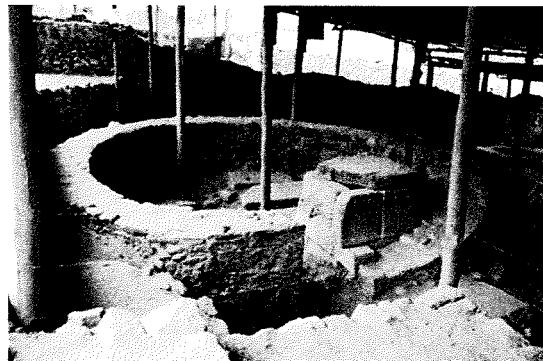


写真1 チェコ・ワシのD字形建築
(筆者撮影)



写真2 ベガチャヨフ・モホのD字形建築
(筆者撮影)

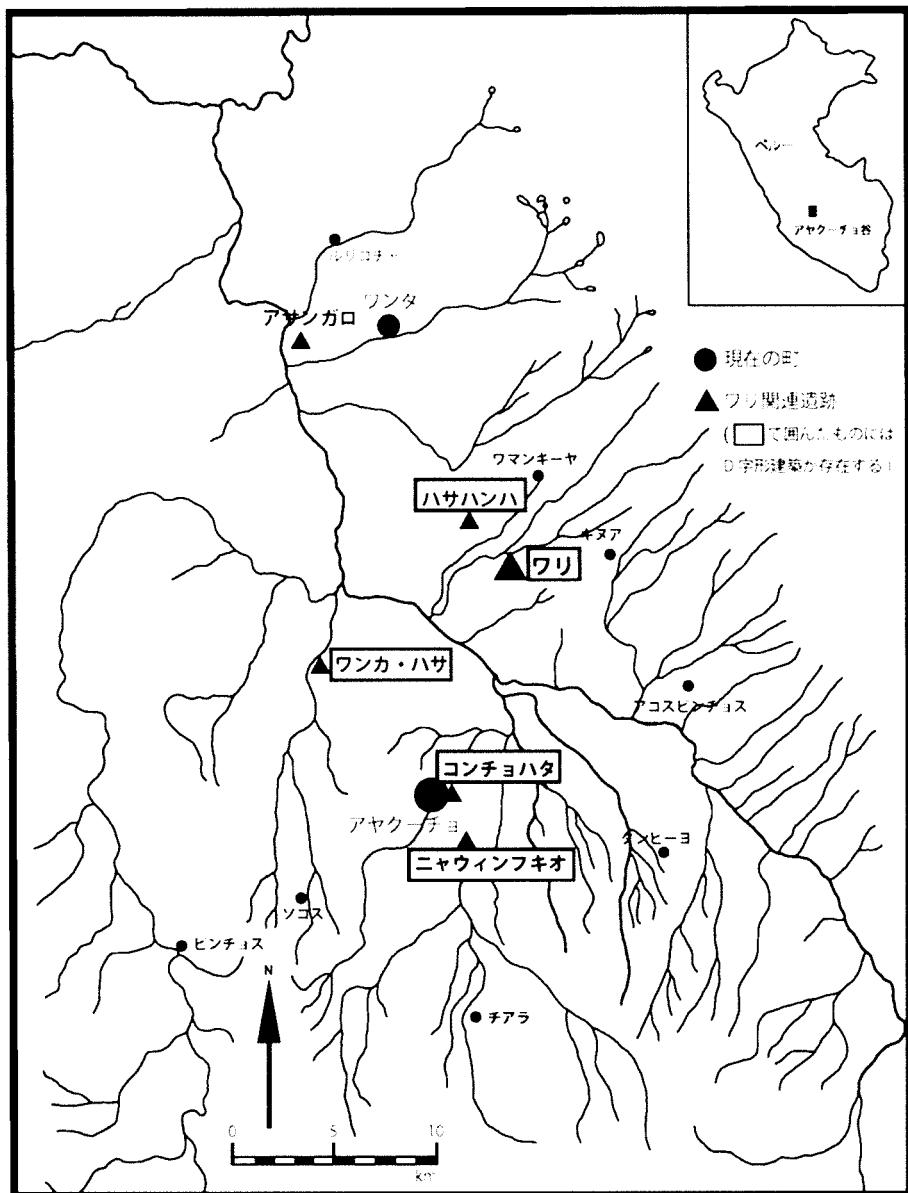


図2 アヤクーチョ谷のD字形建築が存在するワリ関連遺跡

確認されている（図2）。また、アヤクーチョ谷の外では、アヤクーチョの北方のホンコパンパ遺跡 [Isbell 1989; 1991a]、南方のヤコ遺跡 [Meddents y Cook 2001]、セロ・バウル遺跡 [Nash and Williams 2005; Williams 2001; Williams y Isla 2002; Williams et al. 2002]、そしてレクレス・パタ遺跡 [Schreiber 2005: 143] からD字形建築の報告がある。

上述したD字形建築には、埋葬、埋納、人や動物の供犠、トウモロコシ (*Zea mays*) あるいはコショウボク (*Schinus molle*) から造られた酒の消費、そして火の使用の証拠が認められる。すな

わち、D字形建築は祭祀の場としての役割を果たしていたと考えられる。

D字形建築に関する資料の多くは、アヤクーチョ谷内外の、ワリの重要な拠点と考えられる遺跡から報告されたものであり、ワリが成立し地方へ拡大した後の時代に属するものがほとんどである。そのため、どのようにD字形建築が現れ、そこで当初どのような活動が行われていたのかをこれまで知ることはできなかった。ようやく2002年に筆者が調査したワンカ・ハサ（Huanca Qasa）遺跡で、ワリ拡大前の初期のD字形建築が検出された。そこで次に、ワンカ・ハサ遺跡のD字形建築の様子について述べる。

3. ワンカ・ハサ遺跡のD字形建築

ワンカ・ハサ遺跡は、ワリ帝国の中核地域であるアヤクーチョ谷内部に存在し、ワリ遺跡から西方に向かって直線距離で約10kmの、トリゴパンバ村北部に位置している（図2）。遺跡の標高は、海拔約2600mである。西側を流れるチリコ（Chillico）川に隣接した自然の丘が遺跡となっている。遺跡の面積は約4haであり、ワリの遺跡としては小規模である。丘の上部ではところどころ地表に石壁がのぞいているのを観察することができる。2002年の8月から10月中旬にかけて実施したワンカ・ハサ遺跡での発掘調査は、ワリ成立の直前期の住居址の様子を明らかにすることを目的としていたが、その過程で思いがけずD字形建築の存在が明らかになった。また、共伴土器からこの建物は前期中間期後期に利用されていたことも判明した。

D字形建築は、丘の頂上部から少し下ったやや平坦になった場所に位置する。この遺跡では、最初の建物を破壊して埋め立てその上に新たな建物を建設しており、建設活動を大きく2フェイズに分けることができる（図3、図4）。最初の建設活動、すなわちフェイズ1の建物として、R-2とR-8と名付けた2つの部屋がある。R-8がD字形建築であり、R-2はR-8に隣接する矩形の平面プランをもつ建物であった（図4）。

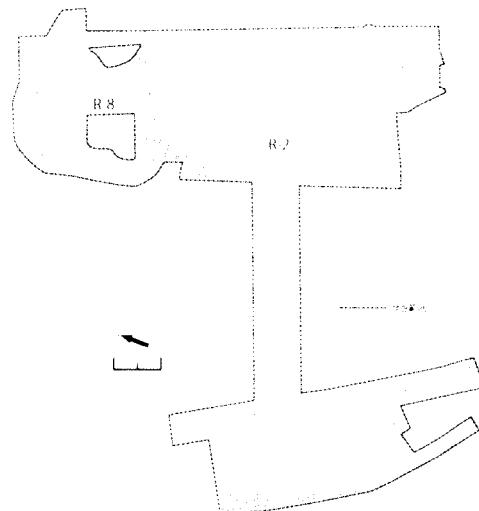


図3 ワンカ・ハサ遺跡、フェイズ1の建築

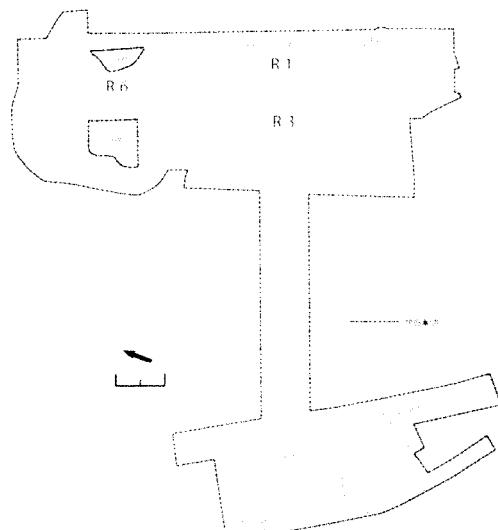


図4 ワンカ・ハサ遺跡、フェイズ2の建築

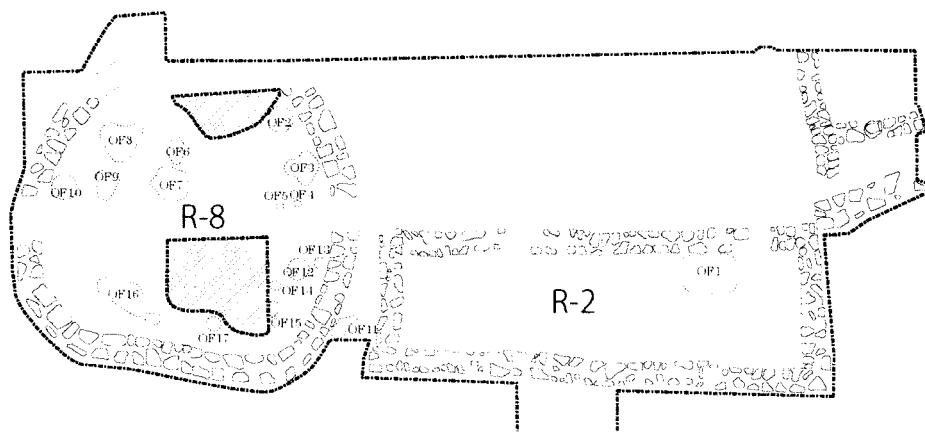


図5 ワンカ・ハサ遺跡の埋納状況

R-8 はほとんどの部分が破壊されており、残っていたのは建物の基礎部分のみであった。R-8 の壁の底部は、床面から 46cm 下にあった。この遺跡の他の建物では、床面から壁の底部までは 2~15cm ほどしかないこととは対照的であり、入念に基盤が築かれているといえる。

4. D 字形建築の放棄に伴う埋納

新たな建物の建設に先立ち、R-8 の破壊と埋め立ては念入りに行われた。R-8 の覆土には、D 字形建築の壁石に由来すると考えられる大量の石のほか、クルス・パタ様式という前期中間期後期の精製土器が多数含まれていた。さらにその下の、R-8 の床面上では、多くの土器が意図的に置かれた状態で見つかった。

まず、R-8 の東部では、頸部が

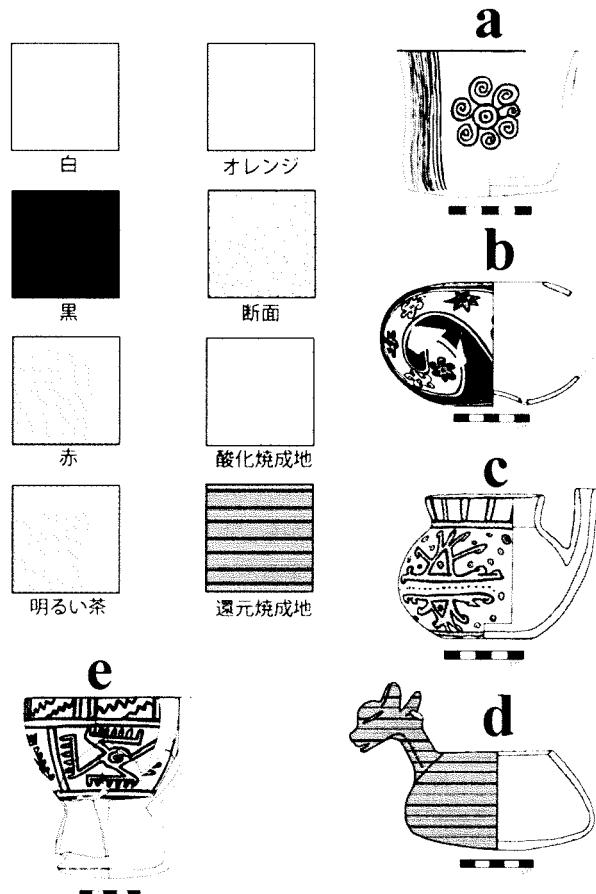


図6 ワンカ・ハサ遺跡出土の埋納土器の例

欠損した尖底の大型壺（図 5: OF2; 写真 3）と、半完形の大型装飾鉢が口縁を上にした正位置で置かれていた（図 5: OF3; 写真 4）。大型鉢の南西側に 40cm ほど離れた場所では、完形の注口土器が口縁を下にして傾いた状態で出土した（図 5: OF4; 図 6: c）。また、その北西側に 15cm ほど離れた場所では半完形の装飾鉢が口縁を下にした状態で出土した（図 5: OF5; 写真 5）。

R-8 の中央付近では、ヒョウタン形の碗（無頸壺）が 5 つ、口縁を下にして、破損した状態で検出された（図 5: OF7; 図 6: b）。ヒョウタン型の碗の北東に隣接して、外面全体にオレンジ色のスリップがかけられた装飾広口壺が 3 個体、破損した状態で見つかった（図 5: OF6; 写真 6）。それらは部分的に接合可能であったが、完全に復元することはできなかった。

R-8 の北側端では、土器片が集中する地点を 3 カ所検出した。その 1 つ埋納 9（図 5: OF9）では、無文の大型土器の把手部分を含む胴部破片がみつかったが、口縁部や底部はなかった。埋納 9 の東側でみつかった埋納 8（図 5: OF8）では、頸部が人面となっている大型壺の頸部と胴部破片の一部が床面上に散乱していた。さらに R-8 北側の壁際の埋納 10 では、頸部の欠損した大型の無文壺が置かれていた（図 5: OF10; 写真 7）。

R-8 の西側では、口縁を下にしたコップ形土器（平底碗）が集中している地点が見つかった（図 5: OF16; 図 6-a）。これらの土器はほとんどが破損していたが、少なくとも 5 個体が含まれていた。その南側からは、建物で 3 方を囲まれた広場的空間を表現した土器が正位置で出土した（図 5: OF17; 写真 8）。

R-8 の南西側では、土器の集中地点を 4 地点検出した。埋納 12 では、4 本の短い脚部をもつ完形皿が口縁を下にした状態で見つかった（図 5: OF12; 写真 9）。それはもともと破損していなかったが、土砂の重みによってつぶれされたと考えられる。そこから 15cm ほど南東に離れた R-8 の壁際の埋納 13 で、胴部中央にくびれをもつコップ型土器が口縁を下にし、破損した状態で見つかった（図 5: OF13; 図 6: e）。さらに、埋納 12 の北西の埋納 14 では、シカを模した象形土器（図 5: OF14; 図 6: d）が、埋納 15 では人面土器（図 5: OF15; 写真 10）が見つかった。両者共に、全体の 7 割ほどを復元することができた。なお R-8 の外部（図 5: OF11）、および R-2 の内部（図 5: OF1）でも埋納の痕跡がみつかっている。

R-8 内部の埋納土器の存在は、この場所が特別な空間であったことを示唆している。精巧に製作されたものが多く、ヒョウタン製容器を模した土器や、シカなどの動物を表現した土器、建築を表現した土器など珍しい器形を多く含んでいた。また、大型土器を除き、口縁を下にした逆さの状態で見つかったものが多かった。完全には復元できないものがある一方で、ほぼ無傷のものも少数存在していた。完形として復元可能であった土器は、R-8 を放棄する際に、奉納品として伏せて置かれたが、その後埋め立てられた結果、土砂の衝撃と重みで破損したと考えられる。

5. D 字形建築の起源を求めて

本稿では、ワリの祭祀建築として注目されている D 字形建築の中でも、今のところ最古の事例であるワンカ・ハサ遺跡の資料を紹介した。祭祀は社会統合の重要な手段であり [Kertzer 1988 (1989); McIntosh 1999: 12-14]、かつ権力形成の場 [DeMareiss et al. 1996; Yoffee 2005: 34] でもある。祭祀施設としての D 字形建築の研究は、ワリの形成に伴い社会の階層化が進行する状況下で、社会統合が

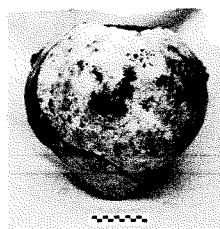


写真3 大型無文壺



写真4 大型装飾鉢



写真5 装飾鉢



写真6 装飾広口壺

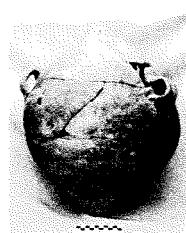


写真7 大型無文壺



写真8 建築土器



写真9 四脚土器



写真10 人面土器

どのように行われたのかを知るための重要な手がかりを提供するであろう。実際に、前期中間期後期に属するワンカ・ハサ遺跡のD字形建築に関する資料は、ワリの出現とほぼ同時期にすでにD字形建築が存在したことを示しており、D字形建築での祭祀とワリの形成との関連性を示唆している。

ワンカ・ハサ遺跡のD字形建築は、ワリの出現と拡大を理解する上で、重要な資料である。しかしD字形建築での活動とワリの形成との関係を明らかにするためには、アヤクーチョ谷内の初期のD字形建築の資料をさらに蓄積する必要がある。ワリの成立・拡大後のD字形建築との比較検討も今後の課題である。

これまででもっとも古いD字形建築が、ワンカ・ハサ遺跡という比較的小さな遺跡からみつかっていることは、このタイプの建築が、ワリ遺跡やコンチョバタ遺跡などの大遺跡で発明され周辺の遺跡へと広まつたのではなく、それが一般集落の祭祀の場として生まれ、発展した可能性を示唆している。ワリの形成過程の解明の鍵となるD字形建築の起源の手がかりは、小遺跡にこそ潜んでいるといえよう。

【謝辞】

本報告のもとになった調査は、平成14年度高梨学術奨励基金の助成を受けて実施された。また調査を無事に遂行できたのは、共同調査責任者である Gudelia Machaca をはじめ、調査員の César Alvarez, Freddy Huaman, Oscar Huaman, Luis Ricce、およびトリゴパンパ村の住民の協力のおかげである。ここに記して感謝の意を表したい。

引用文献

Anders, M. B.

1991 Structure and Function at the Planned Site of Azangaro: Cautionary Notes for the Model of Huari as a Centralized Secular State. In *Huari Administrative Structure: Prehistoric Monumental Architecture*, edited by W. H. Isbell and G. F. McEwan, pp. 165-197. Dumbarton Oaks Research Library and Collection. Washington D. C.:

Benavides, M.

1991 Cheqo Wasi, Huari. In *Huari Administrative Structure: Prehistoric Monumental Architecture and State Government*, W. H. Isbell and G. F. McEwan, pp. 55-69. Dumbarton Oaks Research and Library Collection, Washington, D.C.

Bragayrac, E.

1991 Archaeological Excavations in the Vegachayoq Moqo Sector of Huari. In *Huari Administrative Structure: Prehistoric Monumental Architecture and State Government*, edited by W. H. Isbell and G. F. McEwan, pp. 71-80. Dumbarton Oaks Research and Library Collection, Washington, D. C.

Cook, A. G.

2001 Huari D-Shaped Structures, Sacrificial Offerings, and Divine Rulership. In *Ritual Sacrifice in Ancient Peru*, edited by E. P. Benson and A. G. Cook, pp. 137-164. University of Texas Press, Austin.

- DeMarrais, E., L. J. Castillo and T. Earle
 1996 Ideology, Materialization, and Power Strategies. *Current Anthropology* 37(1) : 15-31.
- Finucane, B.
 2007 *Maize and Sociopolitical Complexity in the Ayacucho Valley*. Unpublished Ph.D. Dissertation, University of Oxford, Oxford.
- Gonzalez, E.
 1996 El área de estudio. In *El templo mayor en la ciudad de Wari: estudios arqueológicos en Vegachayoq Moqo, Ayacucho*, pp.28-46. Universidad Nacional de San Cristóbal de Huamanga, Ayacucho.
- Isbell, W. H.
 1989 Honcopampa: Was it a Huari Administrative Center? In *The Nature of Wari: A Reappraisal of the Middle Horizon Period in Peru*, edited by R. M. Czwarno and F. M. Meddens, pp. 98-114. BAR International Series 525, Oxford.
- Isbell, W. H.
 1991a Honcopampa: Monumental Ruines in Peru's North Highlands. *Expedition* 33(3) : 27-36.
- Isbell, W. H.
 1991b Conclusion: Huari Administration and the Orthogonal Cellular Architecture Horizon. In *Huari Administrative Structure: Prehistoric Monumental Architecture and State Government*, edited by W. H. Isbell and G. F. McEwan, pp. 293-315. Dumbarton Oaks Research and Library Collection, Washington, D. C.
- Isbell, W. H.
 2001 Repensando el Horizonte Medio: el caso de Conchopata. *Boletín de Arqueología PUCP* 4: 9-68.
- Isbell, W. H. and A. G. Cook
 2002 A New Perspective on Conchopata and the Andean Middle Horizon. In *Andean Archaeology II: Art, Landscape, and Society*, edited by H. Silverman and W. H. Isbell, pp. 249-305. Plenum Publishers, New York.
- Isbell, W. H., C. Brewster-Wray and L. Spickard
 1991 Architecture and Spatial Organization at Huari. In *Huari Administrative Structure: Prehistoric Monumental Architecture and State Government*, edited by W. H. Isbell and G. F. McEwan, pp. 19-53. Dumbarton Oaks Research and Library Collection, Washington, D.C.
- Kertzer, D. I.
 1988[1989] *Ritual, Politics and Power*. Yale University Press, New Haven. 〔『儀式・政治・権力』小池和子訳：勁草書房〕
- Machaca, G.
 1997 *Secuencia cultural y nuevas evidencias de formación urbana en Nawinpuquio*. Unpublished Thesis. Universidad San Cristóbal de Huamanga. Ayacucho.
- McIntosh, S. K.
 1999 Pathways to Complexity: An African Perspective. In *Beyond Chiefdoms: Pathways to Complexity in*

- Africa*, edited by S. K. McIntosh, pp. 1-30. Cambridge University Press, Cambridge.
- Meddens, F. and A. G. Cook
- 2001 La administración Wari y el culto a los muertos: Yako, los edificios en forma “D” en la sierra sur-central del Perú. In *Wari: Arte Precolumbiano Peruano*, pp. 213-228. Centro Cultural El Monte, Sevilla.
- Nash, D. J., and P. R. Williams
- 2005 Architecture and Power on the Wari-Tiwanaku Frontier. In *Foundations of Power in the Prehispanic Andes*, edited by K. J. Vaughn, D. Ogburn and C. A. Conlee, pp. 151-174. American Anthropological Association, Arlington.
- Ochatoma, J.
- 2007 *Alfareros del imperio Huari*. Universidad Nacional de San Cristóbal de Huamanga, Lima.
- Ochatoma, J., and M. Cabrera
- 2001 Arquitectura y áreas de actividad en Conchopata. *Boletín de Arqueología PUCP* 4: 449-488.
- Pozzi-Escot B., D.
- 1991 Conchopata: A Community of Potters. In *Huari Administrative Structure: Prehistoric Monumental Architecture and State Government*, edited by W. H. Isbell and G. F. McEwan, pp. 81-92. Dumbarton Oaks Research and Library Collection, Washington, D. C.
- Schreiber, K. J.
- 1991 Jincamocco: A Huari Administrative Center in the South Central Highlands of Peru. In *Huari Administrative Structure: Prehistoric Monumental Architecture and State Government*, edited by W. H. Isbell and G. F. McEwan, pp. 199-213. Dumbarton Oaks Research and Library Collection, Washington, D. C.
- Schreiber, K. J.
- 1992 *Wari Imperialism in Middle Horizon Peru*. Museum of Anthropology, University of Michigan, Ann Arbor.
- Schreiber, K. J.
- 2001 The Wari Empire of Middle Horizon Peru: The Epistemological Challenge of Documenting an Empire without Documentary Evidence. In *Empires*, edited by S. E. Alcock, T. N. D'Altroy, K. D. Morrison, and C. M. Sinopoli, pp. 70-92. Cambridge University Press, Cambridge.
- Schreiber, K. J.
- 2005 Sacred Landscapes and Imperial Ideologies: The Wari Empire in Sondondo, Peru. In *Foundations of Power in the Prehispanic Andes*, edited by K. J. Vaughn, D. Ogburn and C. A. Conlee, pp. 131-150. American Anthropological Association, Arlington.
- Schreiber, K. and J. Lancho Rojas
- 1995 The Puquios of Nasca. *Latin American Antiquity* 6(3): 229-254.
- Soto, C.
- 1976 *Gramática Quechua: Ayacucho-Chanca*. Instituto de Estudios Peruanos, Lima.

- Vivanco, C., I. Perez and J. Amorín
2003 Qasapampa: un poblado de agricultores Wari en la frontera de los valles de Huamanga y Huanta.
Investigaciones en Ciencias Sociales 1: 89-120.
- Williams, P. R.
2001 Cerro Baúl: A Wari Center on the Tiwanaku Frontier. *Latin American Antiquity*, 12(1): 67-83.
- Williams, R. P. and J. A. Isla
2002 Investigaciones arqueológicas en Cerro Baúl, un enclave Wari en el valle de Moquegua. *Gaceta Arqueológica Andina* 26: 87-120.
- Williams, R.P., J. A. Isla, and D. Nash
2002 Cerro Baúl: un enclave Wari en interacción con Tiwanaku. *Boletín de Arqueología PUCP* 5: 69-87.
- Yoffee, N.
2005 *Myths of the Archaic State*. Cambridge University Press, Cambridge.